

春／翔 **復活** 1敗单独

紙相撲新聞

第165回本場所
八～九日目号

編集・発行
日本紙相撲協会

春ノ翔、佐賀ノ海を速攻相撲で圧倒
令和2年6月以来、5年ぶりの優勝なるか

【第一百六十五回本場所八日、九日目】

数日前の大雨の恩恵により暑さが和らぎ、過ごしやすい天候となった7月12日、幕内十兩の八日目、九日目と幕下と育成会の四日目の取り組が、満員札止めの大盛況のなか都内には練馬国技館にて取り行われた。

九日目までを取り終えて1敗で先頭を走っていた3力士は佐賀ノ海が2敗目、若雲山が3敗目を喫し、横綱春ノ翔が1敗を守り単独先頭に立った。

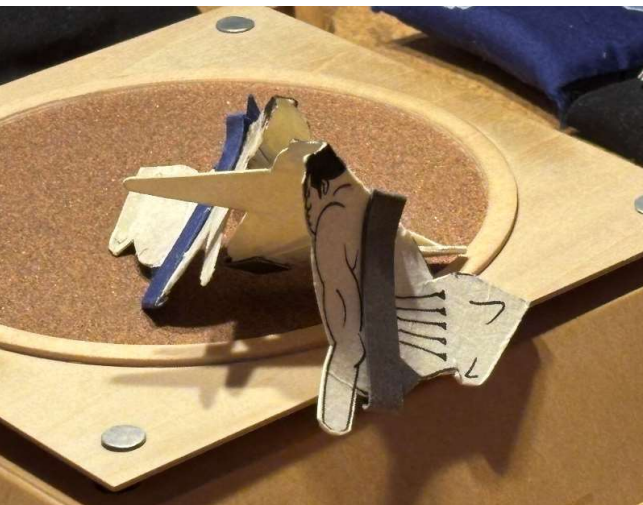
剛勇山、喜乃郷が2敗で、さらに3敗で8力士が追う展開となった。

連日絶頂期を彷彿させる完璧な取り口で、横綱の貫禄を見せつけ白星を重ねる春ノ翔。

八日目は関脇鬼ヶ嶽と対戦し、互角の立ち会いで右の押付け合いから鬼ヶ嶽得意のど輪をかわし、素早く左を差すと抵抗させる事なく寄り切りを下した。



春ノ翔○(寄り切り)●鬼ヶ嶽



↑九日目、横綱春ノ翔と元大関佐賀海の1敗対決は、立ち合いから出足で圧倒した春ノ翔が佐賀海に相撲を取らせず、正面土俵に一気に寄り切った。

↓九日目、西神門には先場所まで全く歯が立たなかった若ノ嶋だったが親方の執念か、まさかの寄り倒しで予想に反してまさかの7勝目をあげた。



佐賀海○(押し倒し)●鹿雲山

翌九日目は佐賀海との1敗対決。この一番でも立ち会いで先手を取ると素早く左を差し昨日同様に関手を取らずに抗のままだ正面土俵に寄り切り1敗を守り単独で優勝争いの先頭に立った。

優勝に一番近い存在に感じる相撲内容に、このまま1敗を守り千秋楽での決戦に期待がかかる。

ここのまですでに2敗で凌ぎ優勝戦線に絡む横綱若ノ嶋。八日目は過去の対戦で負けなしの合口の良い小結の英筏。

立ち会いから鋭い出足で土俵際まで追い詰め右の押っ付けで攻め込み、のど輪を差して押し倒しに下して2敗を守ると続く九日目は西神門との横綱対決。

立ち会いでの右の押っ付け合いからのど輪を差し込まれ



一敗	春ノ翔		
二敗	若ノ嶋	剛勇山、	喜乃郷
三敗	西勢里、	鹿富士、	越境山
	鹿麒麟、	若柱、	音柱
	龍不動、	若雲山	

翌九日目には佐賀海との1敗対決。この一番でも立ち会いで先手を取ると素早く左を差し昨日同様に相手を無抵抗のまま正面土俵に寄り切り1敗を守り単独で優勝争いの先頭に立った。

優勝に一番近い存在に感じる相撲内容に、このまま1敗を守り千秋楽での決戦に期待がかかる。

ここまで2敗で凌ぎ優勝戦線に絡む横綱若ノ嶋。八日目は過去の対戦で負けなしの合口の良い小結の英筏。

立ち会いから鋭い出足で土俵際まで追い詰め右の押っ付けで攻め込み、しど輪を差して押し倒しに下して2敗を守ると続く9日目は西神門との横綱対決。



立ち会いの右
の押付け合いか
らのど輪を差し込
まれ



らのど輪を差し込まれたが、直ぐにのど輪を差し返し粘る相手を押し倒し、2敗を堅守して春ノ翔を追う。

若ノ嶋に続いて平幕のベテラン佐賀ノ海が八日目の若雲山との1



若ノ嶋○(押し倒し)●英 筏

敗対決を制し、目立たずも白星を重ねてきた剛勇山が鹿富士、勝ノ川の実力者を連日鮮やかに寄り切りに破り、



喜乃郷○(寄り切り)●若 柱

幕尻まで番付を落としかつ、後がない喜乃郷も櫻吹雪、若柱を下しそれぞれ2敗で後を追う。

さらにその後を西勢里、鹿富士、越境山、鹿麒麟、若柱、音柱、龍不動、若雲山の8力士が3敗で優勝戦線に絡む。

優勝戦線以外ではすでに4敗を喫した新横網の西神門に負け越したが決まった四季、嶋と力士からまだ勝ち越した力士はおらず、千秋楽まで予断を許さない状況のなか、勝ち越しに向け熾烈な残留争いになるのは必至だ。

平幕の上位陣では西
前頭筆頭の西勢之里が
勝ち越しを決めており
その他の上位陣も虎視
眈々と三役を狙う。



へその三役陣では大関
の足がからかろうと
砂親が小期待のか友
綱花にらか返りて
と英笹が共れに
る。苦戦を強いられ
る。

●(家)

三役を狙う上位陣ではここ数場所の相撲内容に各親方からの評価も著しい、小結から陥落した東筆頭の夢ノ花も5敗目を喫し、残り二日に三役復帰をかける。



●蔵切川(家)○蔵



鬼ヶ嶽○(寄り切り)●夢ノ花



月 山●(寄り切り)○西勢里



鹿富士●(寄り切り)○剛勇山